

《薬局サーベイランスコメント》

『第6週（2月5日～11日）のインフルエンザの患者数は約166万人と漸く減少、流行はピークを超えつつあるが、現在の流行状態はまだ継続していくものと予想される』

2018年2月13日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第6週（2月5日～11日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は1,659,426と前週の値（1,935,715）よりも減少しました（図1）。

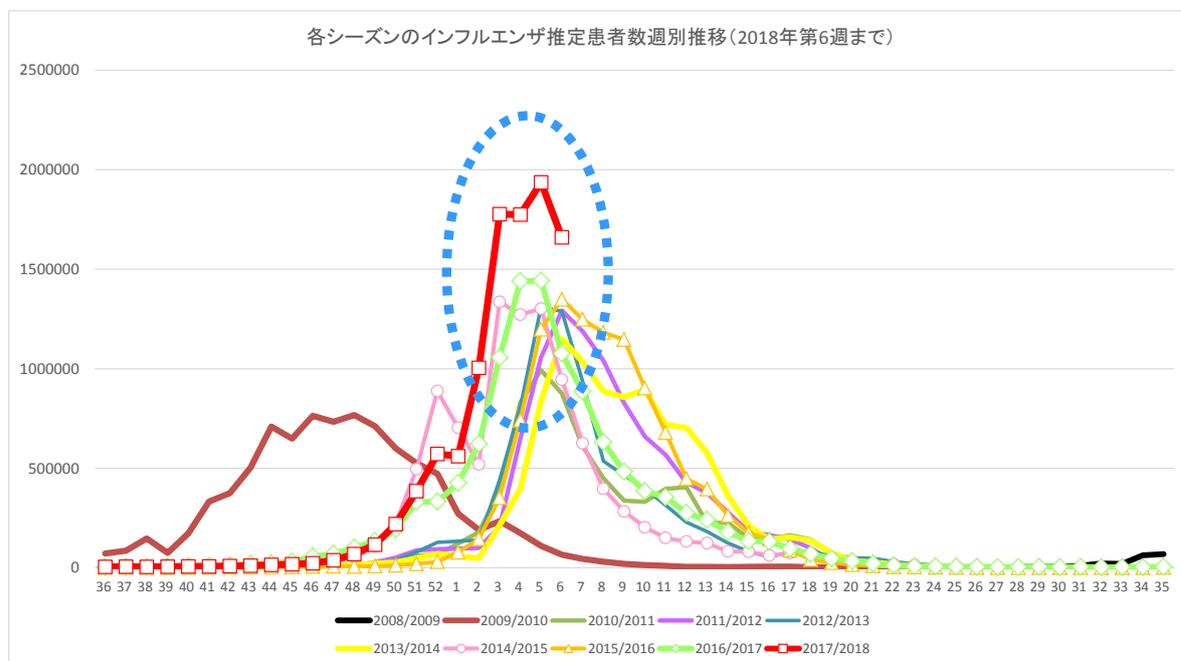


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第6週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第6週の推定患者数= 1,659,426）

各都道府県別の第5週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、福井県、大分県、三重県、富山県、奈良県、高知県、徳島県、熊本県、和歌山県の順となっていて、42都府県で前週の値よりも減少がみられています。

2017年第36週から2018年第6週までの累積の推定患者数は10,212,611であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は8.06%でした。年齢群別の累積罹患率は5～9歳（35.91%）、10～14歳（25.66%）、0～4歳（18.47%）、15～19歳（11.69%）、40～49歳（7.05%）、30～39歳（6.73%）、50～59歳（5.82%）、

20～29 歳（5.60%）、60～69 歳（4.00%）、70 歳以上（2.60%）の順となっており（図 2）、全ての年齢群で週当たりの罹患率は前週の値よりも減少しました。

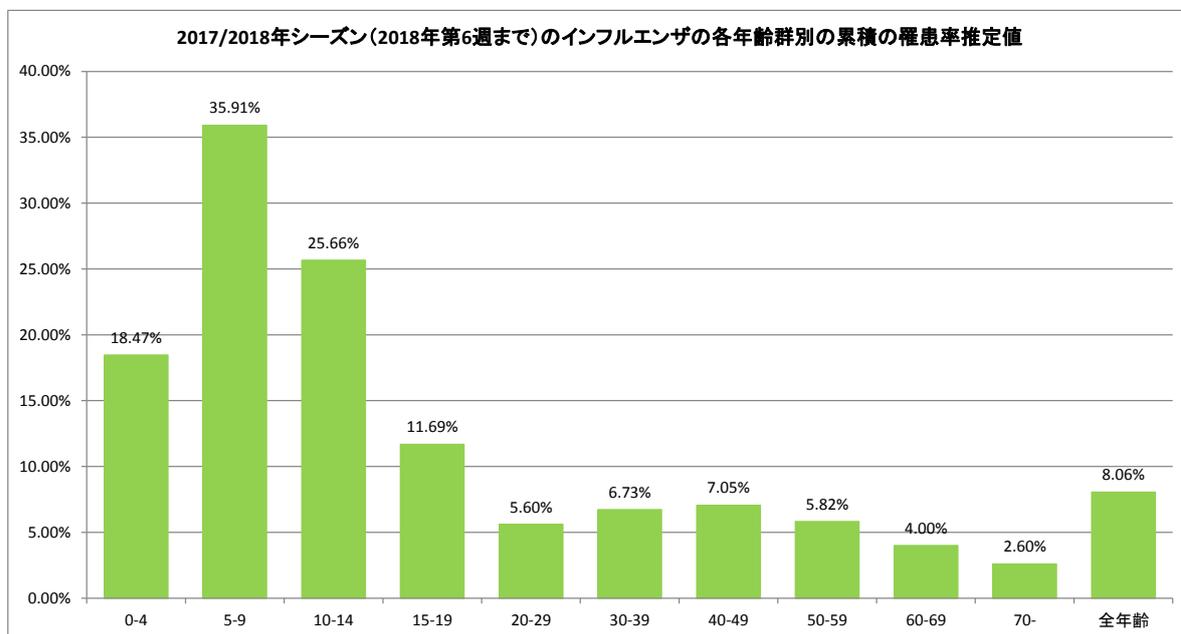


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2017 年第 36～2018 年第 6 週、累積推定患者数= 10,212,611）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（3,067 検体解析）は、A/H1pdm 44.1%、B 型 36.1%、A/H3（A 香港）亜型が 19.8%の順となっています。一方、年明けの 2018 年第 1 週以降に検出されたインフルエンザウイルス 465 検体の解析では B 型 51.6%、A/H3（A 香港）亜型 25.9%、AH1pdm 22.5%と B 型（大半が山形系統）が多数を占めています（図 3）。

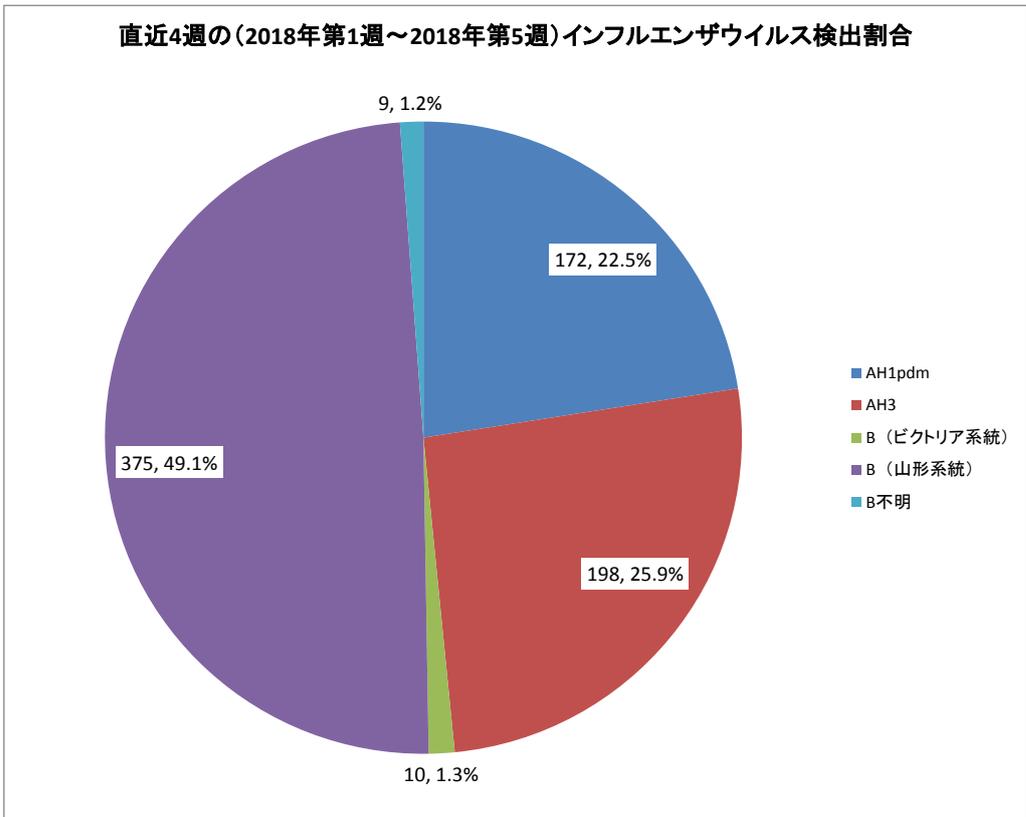


図 3. 直近 5 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 1～5 週、検出数 764)

第 6 週のインフルエンザの患者数は約 166 万人と漸く前週よりも減少がみられました。インフルエンザの流行はピークを超えつつあると考えられますが、過去のシーズンのピーク値よりも高い水準を保持しており、既に B 型インフルエンザが流行の中心となっていることから現在の流行状態はまだ継続していくものと予想されます。まだしばらくはインフルエンザの流行に警戒が必要です。